



## 東京部会(第131回)

日時: 2023年2月2日(木) 19:00 -21:15

場所: 慶応義塾大学三田キャンパス東館 4F オープンラボ+Zoom

参加者: 24名(会場7名+zoom17名)

### 【内容要旨】

(1) 杉田孝之先生(千葉県立津田沼高等学校)から「冬の経済教室」の総括報告があった。

当日の出席者によるアンケートもとに以下の総括報告がなされた。

アンケートは19名回収され、属性では、所属は高校公民科が多く、特別支援学校関係者も参加していること、年齢は幅広いがベテラン層が多かったこと。

中島講演に対する評価は、全体に好評・高評価。新鮮、わかりやすい、刺激になったなどが多く寄せられたが、批判的なコメントも少数だがあったこと。

パネルディスカッションでは、授業プランを示したことが評価されている。中高大からそれぞれの授業プランや内容の整理が提示されていて多面的多角的であったことがディスカッションの内容充実につながったと思われるとの評価であった。

企画全体としては、難しいテーマであったが、企画としては高い評価をえたことと、一部批判もあったこと。また、今後のこの種の教室へは、今回のテーマの継続、経済学と経済教育の関係に関する提示、金融経済教育に関するテーマ、授業の実際や提案が欲しいなど多様な要望がよせられてることが紹介された。

杉田先生からは、はじめて取り組んだテーマで経済の授業で福祉や障がい者問題をどう扱ってゆくか今後さらに追究したいこと、事前のミーティングを繰り返したことで報告内容の質的向上ができたこと、批判的な意見との対話や棲み分けが求められるとの総括が述べられた。

検討では、栗原久先生(東洋大学)から、社会現象は多面的・多角的あり、そのなかで福祉を経済教育の観点からアプローチすることを試みるのが大切との発言があった。

また、当日参加者した先生方からは、障がいにもいろいろありそれらを一つにまとめた社会作りに向けた哲学的な思考がもとめられるのではというコメント、中学で扱う場合は感情やリアルなものから入り、そこから多面的な観点を整理しながら冷静に対応するような流れの授業作りがもとめられるとのコメントもあった。また、社会福祉の授業作りには、中島先生の本にある親としての観点や経済学者としての観点だけでなく、教科としての授業作りが求められ、社会科だったら人権学習、「公共」だったら帰結主義や義務論の観点などを踏まえたものが求められるのではないかという指摘もあった。

篠原代表からは、市場経済では受益と負担が一致しているが、社会保障のように政府が介入している政策の場合は受益と負担の関係はばらばらであり、政府の政策を評価するにはその構造の理解が求められるとの指摘があった。

最後に、進行役の金子先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から、今後のこの種の教室では、一つの本を共通の土台としてそれをもとにした授業提案と検討でプログラムを作ることができるのではという提言があった。

(2) 小谷勇人先生(春日部市立武里中学校)から「「受益と負担」を現代社会の見方・考えからとして取り扱う財政と社会保障の授業実践」の報告があった。

この実践は、三枝利多先生の受益と負担の概念が現代社会の見方・考え方として働かせることができるのではないかと示唆のもとで試みられたもので、税金と社会保障のトレードオフを扱ったものである。

単元は「日本の財政と社会保障」で、全4時のうち「少子高齢化は日本の財政にどのような影響を及ぼしているか」の時間の実践の紹介である。

導入で、東京都の子どもへの月額5000円の給付をどう思うかを生徒に意見表明をさせ、それを踏まえて、第1の揺さぶりとして所得制限なしでおこなわれた10万円の特別給付金の年収別の使い道のデータを示して違いを確認した上で、受益と負担の概念について説明する。

展開1で、内閣府がまとめた「世帯類型別の受益と負担」から8世帯を抜粋したものをグループ別に考察を行って、特徴を分析させる。



展開2では、展開1で分析した内容を踏まえて、日本は今後、大きな政府を目指すべきか、小さな政府を目指すべきかを考えさせる。その際に、第2の揺さぶりとして、世代別の給付と負担のグラフを提示して、世代間格差に着目させる。さらに、第3の揺さぶりとして海外の主要国での給付と負担のバランスの資料を提示して、日本の政府の大きさを確認して、そのうえで今後のあり方を考えさせる。

最後に、導入で問うた東京都の5000円給付についてどう考えたかを再度問い、その変化から生徒の認識の深まりを見るという流れで構成された授業である。

小谷先生からは、5000円給付に関して、効率や公正、希少性などの考え方をもとに理解が深まった事例が紹介されるとともに、家族や友人とで経済について話題にするようになったとアンケートに答えた生徒が7割いたという紹介もされた。

検討では、授業で使ったデータや図表がどこまで判断材料として使ってよいか、特に政府や特定の官庁がだすものにはバイアスがあるので吟味が必要ではないかとの指摘があった。また、大変面白い報告であり、なかでも揺さぶりが面白く、海外との比較、学校での使い方、個人にくる受益、全体にくる受益を判別させたり、いろいろな立場になって考えさせたりするなど、項目を増やしても面白くなるのではとの提言があった。さらに、岸田内閣の異次元の子育て支援のように現在進行形で生徒がイメージしやすい政策をとりあげてみたらという意見も寄せられた。

### (3) 杉浦光紀先生(都立井草高等学校)から「厚生労働省教材 人生100年時代の社会保障を考える」の授業実践二種が報告された。

これは、報告者も関わった「厚生労働省の社会保障教育推進事業」の教材をそのままの形で実施した実践と、それを「倫理」の授業とリンクさせた授業の二つの授業実践の報告である。

そのままで実施した第1の実践は、厚生労働省のパンフレットにもとづいて作成されたワークシートを使った実践であり、報告では、ワークごとの生徒の反応から見られる教材としての有効性も分析された。

ワークには9つの課題、設問があり、ワーク1, 2は社会保障について考えてみようという導入で、これから人生に起こる出来事と社会保障がなかったどうなるかを記述させている。

ワーク3から5は展開1に相当し、公的年金保険について考えてみようというタイトルで、公的年金保険の意義や仕組みに関する知識確認のクイズと穴埋めである。

ワーク6から9は展開2で、少子高齢化が年金に与える影響、人生100年時代のリスクにとその対応を書かせ、最後に、まとめのワーク9で、今後の社会保障を政府が中心で担うか、家族や個人で対応すべきかを選択して意見表明させるというものである。

事前のワーク9に関するアンケートでは、政府が担うが8割を超えていたが、終了後でも8割弱とほとんど変化がなかったことと生徒の意見が紹介された。

また、授業を通して、リスクや社会保障の必要性に気づき、考えるきっかけになったなど肯定的な評価が多かったことも紹介された。

杉浦先生からは、ワークに対する生徒の回答から教材としての一定の有効性は確認されたが、生徒の記述からは、制度全体を見直す視点を主権者教育として接続させてゆく必要性や社会保険の意義や問題をもっと経済的にみてもよいのではないかと、生徒がもってしまう世代間対立の意識や制度の持続可能性への不信に応える授業をすすめる課題があるなどが報告された。

後半に紹介された第2の実践は、第1の授業で使ったワークシートで生徒の評価が高かったワークやクイズを基に新たなワークを追加した「倫理」での授業実践の報告である。

追加したワークは、社会制度の基準として、功利制原理、格差原理、リバタリアニズム、潜在能力アプローチの四つ、社会保障のモデルとして、普遍主義モデル、社会保険モデル、市場重視モデルの三つをあげ、それらをクロスさせて、自分の選択した型の特徴とこれからの社会保障のあり方を提案させるという課題に取り組みせるもので、「公共」の授業。

生徒のそれぞれのパターンの回答分析からは、財政への注目する生徒が増えたこと、価値観から制度設計の見直しが必要になるとの気づきを示す生徒がでたなどの分析が報告された。

検討では、この教材そのものが厚生労働省の価値観の押しつけになっているのではとの指摘があり、知識の確認にはよいかもしれないけれど、政府の役割に関しては公共経済学や効率と公正の観点を踏まえたもっと基本的な取り組みが必要ではというコメントが寄せられた。



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



杉浦先生からは、あくまでこの実践は厚生労働省の教材の有効性を確認することがベースであること、今後、「公共」の授業のなかで、生徒の素朴な「心配」「深刻」「気になる」を生かしてゆける授業づくりをしてゆきたいとのコメントがあった。

(4)まとめ

今回の東京部会では、社会福祉の授業づくり、社会保障の中学と高校の授業報告と検討が行われ、予定時間をオーバーする意見が寄せられた。今回取り上げられた社会保障の制度問題含め、政府の役割に関しては5月に札幌で予定されている経済教室(拡大札幌部会)で検討が進められることが期待される。

(記録と文責:新井)

テスト問題 (新テストなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 中学	<input checked="" type="checkbox"/> 高校	<input checked="" type="checkbox"/> 指導案	新聞教材(NIE)
-------------------	--	--	---	-----------

次回開催予定: 2023年3月18日(土) 15時00分~17時00分 大阪部会と合同でzoom会議  
議題: 共通テストの分析、授業案の検討 など